

タケノコカワニナの愛媛県内北限の産地

黒田啓太^{1,2}・石川 裕³¹ 愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター² 愛媛大学農学部環境昆虫学研究室³ 愛媛県松山市湯の山7丁目7-10写真1 *Stenomelania rufescens* タケノコカワニナ
(BCEJ-Mo 0093)

種の記録

Thiaridae トウガタカワニナ科

Stenomelania rufescens (Martens, 1860)

タケノコカワニナ (写真1)

標本 2 exs. 愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター蔵 (BCEJ-Mo 0093-0094), 八幡浜市保内町川之石, 23 vi 2022, 黒田啓太採集.

種の特徴

大型個体では殻頂部が欠落。輪郭は縫合が浅く、直線的で螺管はわずかに膨らむ。殻皮は赤褐色から黒褐色、鈍い光沢をもつ。殻表は平滑、老成個体は水垢状のものに覆われる(吉良, 1959; 増田・内山, 2009)。

備考

学名は増田・内山(2009)に従った。県内では宇和島市以南(宇和島市, 愛南町)の11地点から記録があるが、中には絶滅した産地もあり、愛媛県レッドデータブック2014では絶滅危惧Ⅱ類(VU)として扱われている(石川, 2014)。本報告の記録は県内分布の北限を更新するものである。当地の環境が一般に本種が棲息する河口部の汽水域ではなく、住宅街の中を流れる底床に砂泥が堆積した三面コンクリート水路であったことは注目に値する。

引用文献

石川 裕. 2014. タケノコカワニナ. 愛媛県レッドデータブック改訂委員会編, 愛媛県レッドデータブック2014, 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物, p. 263, 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 松山.

吉良哲明. 1959. 原色日本貝類図鑑 増補改訂版. 239p. 保育社, 大阪.

増田 修・内山りゅう. 2009. 日本産淡水貝類図鑑2 汽水域を含む全国の淡水貝類. 240p. ピーシーズ, 東京.

(2022年8月25日受理, 2022年8月27日公開)

連絡先: 黒田啓太(e-mail: diptera.kuroda@gmail.com)

(Keita Kuroda and Hiroshi Ishikawa. 2022. Northernmost record of *Stenomelania rufescens* (Gastropoda: Thiaridae) in Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 22008)